

杉並ユネスコ協会青年部広島スタディツアー

被爆体験講話 & 意見交換会

3月26日 広島平和記念資料館東館地下 メモリアルホール



この日の集いには、杉並ユネスコ協会青年部のみなさんと広島の高高等学校生徒、高校生平和大使、会合開催に協力してきた広島ユネスコ協会のメンバーが参加して開催されました。司会は、第10代広島平和記念資料館長（広島ユ協副会長）の畑口實さんが担当してすすめられました。

会合では、亀井章・広島ユ協会長挨拶のあと、6歳の時、爆心地から2キロ離れた広島駅のプラットホームで、列車を待っていて被爆された第9代広島平和記念資料館長である原田浩さんの被爆体験を聞きました。

その後、続いて「平和について」の若者の意見交換会となり、広島大学附属中・高校教諭の藤原隆範さん（広島ユ協理事）の進行で、「広島・杉並相互の思い」を発表し、意見を交わしました。杉並ユ協のスタディツアーは今年で21回目。参加者にとっては、被爆の実相を学び、戦争や貧困のない平和な世界実現に向けて、有意義な機会になったようです。



亀井会長あいさつ



原田浩さんの被爆体験講話



意見交換会



スタディツアーに期待

意見交換会では、広島と杉並の若者が平和について話し合いましたが、 広大付属高校ユネスコ班長は、広島の復興のために尽力された幼稚園の園長先生の貴重な話を、こみ上げてくる感情を抑えながらとつとつと話され、みんなで聴き入りました。彼女はその話をお母さんから聴いて、廿日市市から広島市にあるその幼稚園に通ったそうです。

杉並ユネスコの若者からは、読んだ「はだしのゲン」のことや学校における平和教育などについて質問や意見がありました。この意見交換により若者が互いに視野を広く持ち、平和を構築する思いを深め合いました。

日本が1941年にハワイの真珠湾の米軍艦隊に攻撃して戦争を始め、周辺のアジアの国々に軍隊が進出して現地の人々の権利を侵害しました。そして広島市と長崎市に原爆が投下されて市民や建物などが悲惨で甚大な被害を受け、73年が経ちました。現在の広島市は、多くの人々の尽力により復興していますが、原爆の後遺症によって苦しんでいる人が今なおいます。

2017年7月に国連で核兵器禁止条約が採択され、50か国以上の批准により発効することになっています。調印して批准するという流れになりますが、2019年4月現在で70か国が調印し23か国が批准している状況です。日本政府は、核兵器保有国と非保有国とが対立しないよう橋渡し役になると話し、批准していません。多様な立場にある各国が、対話をしながら平和を構築する必要がありますが、戦争により唯一被爆した経験があり、核兵器の非人道性をよく知っている日本が、批准していない状態が続くのは良いことでしょうか。

今後も被爆の実相を心に刻み、戦争や貧困のない平和な世界の実現に向けて次世代に継承するため、このヒロシマ平和学習会を継続して開催支援するつもりです。このことは、国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）の17目標を達成することにつながると思います。

広島ユネスコ協会 平和・世界遺産部会長 内田一士